

山口新聞

平成 24 年 8 月 3 日 (金)

NO.17

農地・水・環境

守ろう地域の手に

⑰



話は昭和40年代にさかのぼる。村の人口は激減し、

47(1972)年には未曾有の大水害に見舞われ、仁保地区は廃墟になるとまで言われていた。この時、復興に向け、先人たちにより「近代的田舎社会づくり」の計画が策定された。

仁保の里保全会(山口市)

集落の英知を結集し集落営農 継続と農地の保全に取り組む

あれから10年、「道の駅 仁保の郷」を拠点とした、買い物などの「ワンストップサービス」化も実現したが、農業情勢の悪化や農作物の鳥獣被害などで生産意欲の減退が深刻化している。

こうした現状を、農地・水・環境保全対策を全対策を活用し、集落全体での共同

「農業で都会並みの生活が出来るむらづくり」を基本理念に、①生産基盤の整備②生活基盤の整備③人間味豊かな人づくりを進めるものであった。

生産基盤の整備は、約500畝のほ場整備事業を実施した。人間味豊かな人づくりは、仁保地区の23集落が団結して様々な公民館活動などに取り組んだ。

その成果が実ったか、平成13(2001)年には「豊かなむらづくり全国表彰(むらづくり部門)」で天皇賞の栄誉に輝いた。

(代表、梶本孟生)
—金曜日掲載—

【Xモ】代表 梶本孟生
▽会員 585人、農家、自治会、営農改善組合、土地改良区、JA▽設立 2007年4月▽受賞 歴 2001年豊かなむらづくり全国表彰で天皇賞▽事務局 山口市仁保中郷957の2、仁保土地改良区、桑原充夫 ☎ 83・929・0271



上 深野支部の皆さん
下 力を合わせて用水路の泥上げ作業